



《北辺春》1997年 宮城県美術館

花、大地、山——自然を見つめて
生誕100年
SHOJI Fuku
莊司福展

会 期：2009年4月11日(土) — 6月14日(日)
休 館 日：月曜日(ただし、5月4日は開館)、4月30日(木)、5月7日(木)
開館時間：午前9時30分～午後5時[入館は午後4時30分まで]
観 覧 料：一般900(800)円、20歳未満と学生750(650)円、65歳以上450円
*高校生以下と障害者の方は無料です。()内は20名以上の団体料金
*ファミリー・コミュニケーションの日
毎月第一日曜日(今回は5月3日と6月7日)は、18歳未満または
高校生以下のお子様連れのご家族は、全員無料でご観覧いただけます。
会 場：神奈川県立近代美術館 葉山
〒240-0111 三浦郡葉山町一色 2208-1 tel.046-875-2800
主 催：神奈川県立近代美術館、神奈川新聞社

神奈川県立近代美術館は、日本画家 莊司福しょうじふく(1910—2002)の数えで生誕100年を記念して大規模な回顧展を開催いたします。莊司福は、1910(明治43)年に父の仕事の関係で赴任していた長野県松本で生まれました。青春時代に東京の女子美術学校で日本画を専攻しましたが、卒業後、若き数学者莊司篤と結婚し、東北の仙台に新居を構えました。しかし、夫は結核にかかり、若くして命を失います。二人の乳飲み子を抱えながら、莊司福が生きる目標としたのが日本画の創作活動でした。

画家として仙台でスタートさせた前半生と、その後にご過ごした東京、横浜での後半生を通じて莊司福の創作活動は、戦後の日本画の歩みをそのまま体現したといえます。戦後の洋画を貪欲に吸収していった1950年代の作品から始まって、莊司福は、徐々に東北の生活や信仰に共感を寄せていきました。1960年代から1970年代にかけては、海外への取材にも意欲的に取り組み、インドやネパール、さらにエジプトやケニアといったアフリカにまで足を伸ばします。仏教遺跡やオリエントの神々に接することで、古代への思いを創作に生かそうとしていきました。そして、若き日に東北の土俗的な神々を題材にした素朴な美意識に彩られた作品から、1980年代に入ってくると、静謐で玄妙な画風を経て、日本画の世界に独特の深遠な境地を生み出すようになっていきました。1980年に70歳を迎えた莊司福は、さらに亡くなる92歳までの晩年の20年間を、自然との対話に努め、苔むした石が連なった《刻とき》(1985)や清々しい早春をとらえた《到春賦》(1987)といった傑作を生み、さらに自然と交感し、ついには自然と融和した精神状態で《明け行く》(1999)や《春の海》(1999)などの絵画を描く境地に至ったのでした。

今回の展覧会は、莊司福の没後初めての大規模な回顧展で、代表作約90点を通して、莊司福の雄大で厳粛な世界を展覧します。戦後の日本画の質の高い到達点の一つを示す莊司福の芸術をご堪能下さい。

関連企画

- ◆講演会 「母、莊司福のこと」(仮題) 講演者：莊司準氏(莊司福ご子息)
日 時：5月17日(日) 14:00 - 16:00
会 場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
定 員：先着70名(要申込)、無料
申込方法：住所、氏名、電話番号、ファクス番号をお書きの上、ファクスにてお申込ください。
申 込 先：神奈川県立近代美術館 葉山 ファクス 046-875-2968
申込締切：5月10日(日)
- ◆担当学芸員によるギャラリー・トーク : 申込不要、無料(ただし「莊司福展」の観覧券が必要です)
日 時：4月18日(土)、5月16日(土)、5月30日(土) 14:00 - 14:30



《若い群》1963年 神奈川県立近代美術館



《史》1989年 宮城県美術館



《物化》1976年 神奈川県立近代美術館



《刻（とき）》1985年 神奈川県立近代美術館



《櫻》1981年 神奈川県立近代美術館